

株式会社セールスフォース・ドットコム & ちよだボランティアセンター、  
児童発達支援・放課後等デイサービスぴかいち、  
認定 NPO 法人フローレンス

■活動開始年月:2008年12月 ■企業ボランティアの数(実数):400名

#### ■活動のきっかけや経緯:

弊社の社内の有志で組織される社会貢献委員会の「福祉・医療チーム」では、10年以上にわたり福祉分野の活動を継続しています。具体的には、NPO法人ぱれっとと連携し、障がい者向けのIT教室を運営し、パソコンを活用した制作物のお手伝いやインターネットを活用した調べ物、コミュニケーションの体験を提供してきました。

2020年に入り、新型コロナウイルスの影響で全社員が在宅勤務の体制となり、そして、社外における対面ボランティアが全面禁止となり、ボランティア活動への新しいアプローチが必要となりました。「福祉・医療チーム」のメンバーが今できることを模索する中で、フルリモート環境下で実現させた活動を報告します。

#### ■ボランティア活動の内容:

社会貢献委員会「福祉・医療チーム」が取り組む活動のうち、以下3つの活動をご紹介します。

##### (1)高齢者向けIT支援(パートナー:ちよだボランティアセンター)

新型コロナウイルスの影響で、あらゆる活動が制限される一方で、ITツールを利用した活動の機会も増えています。そんな中で、千代田区内でボランティアをされていらっしゃる高齢女性の方からITツールを学びたいというご相談をきっかけに、社員ボランティアによるZOOMの使い方説明会を開催しました。今後も依頼をいただき次第継続予定です。

##### 【説明会に参加した方の感想】

「傾聴ボランティアのサポートツールとしても使えそうです」

「これでオンライン講座にも出られます。ありがとうございます」



##### (2)ちよだフレンドプロジェクト～障害児との文通プロジェクト～

(パートナー:ちよだボランティアセンター、児童発達支援・放課後等デイサービスぴかいち)

企業のCSR活動を推進する『東京D&I(Diversity & Inclusion)プロジェクト』として、障害児の放課後等デイサービスを実施している「ぴかいち」と協働し、障害児との文通プロジェクトを実施しています。コロナ禍で対面の活動が難しい中、手紙を書く楽しさや返信の来るワクワク感を子どもたちに感じていただくことが目的です。月に1回、好きな歌や漫画、冬休みにいきたいところなどテーマ別に子どもたちとボランティア社員が文通をし、手紙の書き方を学ぶ機会になったり、コミュニケーションの楽しさを伝えています。

##### 【社員からの感想】

「子どもたちのことを思いながら書くレターやチームで内容を考えてながら行う時間は、とても楽しく、日常とは違う大切な時間になっています」



### (3)障害児保育園ヘレンへ巧技台の寄贈とオンライン贈呈式の開催

(パートナー:認定 NPO 法人フローレンス)

フローレンスが運営する障害児保育園ヘレンとの取り組みです。当初、ボランティア活動費助成を活用して、子どもたちが遊びながら体を動かせるように巧技台を寄贈し、社員ボランティアによる組み立てを予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で現地訪問ができなくなり、代わりに、巧技台のオンライン贈呈式を開催しました。また、社員がクリスマスカードを準備して、贈呈式に参加しました。

#### 【保育園からの感想】

「外遊びがなかなかできない環境の中で、巧技台を大切に活用させていただきます」

#### 【社員の感想】

「子どもたちが巧技台にチャレンジする姿にとても感動しました」

#### ■活用されている企業のリソースや従業員のアイデア:

まず前提のリソースとして、セールスフォース・ドットコムでは、『1-1-1 モデル』と呼ばれる統合的なフィランソロピーモデルを展開しており、「就業時間の1%」、「株式の1%」、「製品の1%」を社会に還元しています。社員は年間7日間のボランティア活動時間(56 時間分)を活用して、自分の興味や関心のある社会課題に対してボランティアに取り組みます。

社内有志のボランティアチーム「福祉・医療チーム」の母体となる社会貢献委員会には約 80 名の社員が複数の部門から所属し、教育や若者支援、途上国、動物支援など 10 チームに分かれ、互いのナレッジをシェアしながら全社員を巻き込んだボランティアの企画・運営に取り組んでいます。

今回の「福祉・医療チーム」も、営業や採用、人事、技術職などの多様な職種の社員ボランティア 5 名で構成されており、それぞれの興味・関心に加え、業務上の知見を活かして活動しています。

本チームの取り組みにおいての社員の工夫、アイデアとしては、以下の通りです。

(1)東京以外の遠方の社員もフルリモートワーク環境の中、リモートを駆使してボランティアに参加しています。高齢者向け IT 支援のメイン講師は、和歌山県の白浜オフィスに勤務する内勤営業の社員でした。また、研修の内容は、既に他のボランティアチームで実施していた、NPO 向けのオンライン研修や DX(※)に関するアドバイスなどの実績や内容を活かして企画されました。

※Digital Transformation:IT の浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させるという概念

(2)障害のある子どもたちとの文通では、社員からの提案で、手紙に折り紙を付けて送り、子どもたちに、手紙をより身近に、あたたかく感じていただけるよう工夫しています。また、手紙のやりとりだけに止まらず、オンライン交流会も企画しています。

(3)巧技台のオンライン贈呈式に向けて、社員ボランティアメンバーからの提案でクリスマスカード作成が決まり、社員からの働きかけにより、弊社代表取締役兼会長の小出をはじめ、役員たちもオンラインでカードづくりに協力しました。

#### ■活動を通じて得られた成果:

今年はコロナ禍で、ボランティア活動が制限される中でも、ご相談をいただいた皆様のニーズをもとに、創意工夫をしながらデジタルとアナログの良さをそれぞれ活かし、リモートワーク環境下での新しいボランティア活動を創出することができました。

新型コロナウイルスの影響でデジタル化が進む時代の中で、ひとりでも取り残される方がいらっしやらないように、IT 企業としてできることを模索していくと同時に、文通のようなアナログのあたたかさを大切にしながら、受益者の方に喜んでいただけるような活動を今後も企画して参りたいと思います。